

下関市国際交流員 李 佳琦
(中国山東省青島市派遣)

「中日友好の架け橋」

下関市国際交流員の李佳琦（リ カキ）です。4月から様々な業務を行ってききましたが、特に下関市小学生中国派遣研修団の事前研修と、下関市国際交流ボランティア研修会のお手伝いをさせていただいたことを通じ、中日友好に関心の高い人達と濃密な時を過ごすことができました。そこで感じたことは、これまでに中日間交流に携わったことのある経験者は私が思っていた以上に多かったこと、そして、これから国際交流の舞台に立ちたいという青少年の意欲が高かったことです。

下関市国際交流ボランティア研修会では、災害時を共に乗り越えるために、どのように外国人被災者に対して支援を行うことができるかというテーマを中心にグループワークが進められました。

日本語のできない外国人技能実習生被災者の役を与えられた私に、中国語で話しかけてくれたボランティアが、

「你 一定 很 害怕 吧， 受伤 了吗？ 哪里 不舒服？（きっと怖いですよね。お怪我はないですか？具合はどうですか？）」

「你 一个人 在 国外， 父母 一定 很 担心， 我会 想办法 帮你 联系 他们。（海外で一人暮らしをしていれば、親御さんは心配されますよね。できるだけ連絡を取ることができるよう、なんとかいたします。）」



など、中国語で円滑に情報を引き出して、私の被災状況を把握しながら、スムーズに避難者登録カードを記入していきました。

ボランティアの言語力の高さと、災害時の状況を本気で想定し、一生懸命解決策を見出そうとするその姿に感銘を受けました。

その時、ある昔の出来事をとっさに思い出し、それが頭から離れなくなりました。

それは2018年の春、友達と京都へ旅行したときのエピソードでした。二条城に行こうと道端で地図を片手にバス時刻表を確認する私たちを助けてくれた方がいました。話を伺ってみると、その方の娘さんが海外留学をしており、娘さんが困ったときに現地の方に助けてもらえるといいなという思いで、本人も積極的に日本にいる外国人が困っているときには助けようとしているそうです。



その考え方に深い感動を覚えました。

中国の熟語では「jiāng xīn bǐ xīn 将心比心」や「tuī jǐ jí rén 推己及人」という、「他人の立場に立って物事を考え、他人を思いやる」という意味の言葉があります。その言葉を大きく捉えると、「海外にいる同胞の立場に立って物事を考え、自国にいる外国人を思いやる」というふうに説明できるように思います。

しかしながら、教育現場ではいくら他人の立場で考えてくださいと言っても、大人でも完璧にこなせないことを、子どもが安易にできるわけがなく、ましてや外国人相手ならなおさらでしょう。

このような考えについて、子供が自ら理解を深め、かつ、青少年が国際舞台で将来活躍するための礎となると思わせる行事が、青島市と下関市の間で行われました。

昨年、コロナ禍により中止されていた下関市小学生中国派遣研修が5年ぶりに再開され、10名の小学生が参加しました。団長の報告書にあった、「国によって生活様式や文化が違うことをまず理解することこそ、国際社会で生きていく人になるための第一歩」という言葉が大変響きました。派遣研修を通じて、子ども達が「私は海外にいる」「現地目から見ると私こそ外国人」という何ものにも替えがたい経験が、自分の殻を破り他人の立場を理解し認めるきっかけになるのではないかと思います。



団員のレポートを読むと、「日本と違うところ」に関心が高く、特に印象に残ったのは、「中国の信号はあと何秒で信号が変わるといった数字が書いてあり、日本でもこれがあれば便利だなと思いました」という内容です。何年もわたり中国と日本の間を行き来している私でも全く意識していなかったこの点を、初めての中国訪問であるにも関わらず気づいた研修団員の鋭い観察力に感心しました。



歩行者の信号



車の信号

レポートでは他にも、青島市で実際に体験した食文化や市内の視察等を踏まえ自分の感想を語った面白い内容もたくさんあり、小学生とは思えないぐらいに上手にまとめたなど、心から感服しました。

ところで、小さい頃から海外文化を体験することができる青少年はほんの一部にとどまっています。

そのような状況下においても国際感覚を育てていくには、自国で国際交流の土台をきちんと築くことが大事であると思います。国際交流に携わる人をはじめ、すべての大人は身をもって異文化を受け入れる範を垂れなければならない、またこれから中日友好関係の架け橋として国際舞台で活躍する子ども達をサポートしなければならないと思います。

青少年時代から養われた異文化理解能力と国際感覚は、個人レベルでは将来の選択肢を広げることになり、国際社会レベルではグローバルな視野を持つ人材の育成につながります。

これからも中日関係の架け橋になる人材を増やすため、もっとたくさんの方が国際関係のタマゴの育成に関わるといいなと私は思っています。

